

# 令和6年度吉川市立吉川中学校 学校評価

- ・ 教職員評価の欄については、左下の基準により教職員が自己評価した結果の平均値です。
- ・ 関係者評価は、学校運営協議会委員・保護者等が評価した結果の平均値です。

4 高いレベルでできている。(8割以上の達成状況である。)	3 概ね基準に達している。(6割以上8割未満の達成状況である。)
2 基準には達していない。(2割以上6割未満の達成状況である。)	1 ほとんどできていない。(2割未満の達成状況である。)

- ・ 各項目の内、「児童生徒は・・・」、「学校は・・・」で始まる質問については、児童生徒や学校全般を振り返り総合的に評価しています。

## 評価項目「組織運営」

N O.	質 問 項 目	自己 評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関 係者 評価 (4~1)
1	学校は、学校教育目標の実現のため、様々な取り組みに努めている。	3.1	年度当初に校長から示された学校教育目標『考える 蓄える 伝える生徒』が、職員に浸透している。学校教育目標は生徒が生活する指針であるため、すべての教室に掲示し、その実現に向けて職員も生徒も意識し、日々の教育活動を展開している。	3.6
2	教職員は PDCA サイクルのもと教科指導や学級経営・校務分掌にあたっている。	3.1	前年度末・年度当初の教科会・学年会・分掌会での立案した計画の下で実施するとともに、常時検証・改善を図りながら進めている。 学級経営においては、学校全体で充実した学級会の実施など計画的に進め、よりよい学習環境づくりつとめた。	3.4
3	学校は事故やトラブルに対してのマニュアルを作成・掲示し、迅速に対応できる体制を整えている。	3.2	学年・学級経営の視点として、「あれから1週間作戦」「2分間道徳」「3人目の声かけ」「退勤4チェック」を合言葉として実践をすすめている。 事故・トラブルにおいては、管理職への報告を徹底するとともに迅速に対応している。	3.5
4	学校は清掃活動や掲示物等に力を入れるなど、組織的に環境美化に努めている。	2.8	毎日15分間の清掃を徹底して行っている。今年度は学期末に清掃活動を強化する取り組みを環境担当中心に行った。学校教育活動を可視化する掲示物を随時掲示している。 日常的な環境美化に今後力を入れていきたい。	3.4
5	学校は小中の連携を図り、小中一貫教育を推進している。	3.2	今年度は、保健体育科の授業連携(前期)、探究型合同授業の実施(10月)、小6体験授業(11・12月)、特別支援学級交流会(11月)などを実施し、計画的に進めた。	3.5

## 評価項目「保護者・地域との連携協力」

N O.	質 問 項 目	自己 評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	委員 評価 (4~1)
6	教職員は PTA 活動や地域の活動に積極的に協力し、地域の人材を活用した学習活動を積極的に行っている。	2.9	体育祭(5月)・合唱祭(10月)に学校公開を行った。今年度は体育祭(5月)を保護者以外にも公開し、PTAにも協力をいただきたくさんの地域からの参加を得た。また吉川中学校庭での市民体育祭の実施(10月)、吹奏楽部の演奏、文化的作品の市内展示会への出品など学校外の行事にも積極的に参加した。	3.1
7	学校は、学校の様子や成果を「学校だより」やホームページ等を活用し、積極的に情報提供している。	3.4	学校だよりや学年だよりを定期的に発行し、日頃の教育活動を家庭に紹介し、メール配信システムを使って全家庭に配信している。またホームページ「学校ブログ」を随時更新し、地域の方にとって興味をひくホームページ作りを心掛けている。	3.7
8	学校は地域の人材を活用するなど、保護者と地域が連携した教育活動を推進している。	2.9	昨年度に引き続き、2月に1学年の総合的な学習の時間に保護者による出前授業を実施する予定となっている。 保護者や地域の方の相談や要望について、内容を教職員間で共有し、学校全体で対応した。今後も保護者や地域の願いを真摯に受け止めたい。	3.0

## 評価項目「学力」

N O.	質 問 項 目	自己 評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	委員 評価 (4~1)
9	児童生徒は、落ち着いて学習に取り組む、学習内容を理解しようとしている。	3.1	どの授業においても、落ち着いた態度で授業に取り組んでいる。ただ、学習についていくことができず悩んでいる生徒も少なくない。今後も個別最適な学び・協働的な学びを一体的に充実させ、学力向上を図っていきたい。	3.4

10	教職員は学力向上を目指し、PDCAサイクルのもと、児童生徒の実態に基づいた授業改善に努めている。	3.2	生徒の学習意欲に応えるため、全職員で各教科の特性に合わせて教材や指導方法を工夫している。ICTの効果的な活用、全学調・県学調の検証などを通して、「わかった」「できた」「もっと学びたい」と生徒が思う授業の展開に努めている。	3.3
11	教職員は一人一台端末を積極的に活用し、ICT活用を推進している。	3.4	どの教科においても効果的な活用ができています。今年度導入されたオクリンクプラスについても積極的な活用を行っている。あわせてクラス数の増加により大型TVが不足している。改善を検討していく。	3.8
12	学校は学習ルールを定めて授業を進めるなど、共通理解のもと指導にあたっている。	3.2	「STUDY10」という学校共通のルールを4月に教職員間で確認し、それに基づいた学習ルールを全教員が実践している。今後は時代に合わせてアップデートした学習規律を確立していくために教職員間で協議・研修を重ねていく。	3.4

評価項目 「規律ある態度」

N 0.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	委員 評価 (4~1)
13	児童生徒は、友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、正しい言葉づかいをしたりすることができる。	2.6	日常的な挨拶においては、教職員の挨拶に目を見て挨拶を返す生徒が増えたものの、「自分から」「あかるく」については課題を感じている。正しい言葉遣いととも、その意義を伝えていくことで、浸透させていきたい。	2.6
14	児童生徒は、学習のルールや生活のきまり・時間を守ることができる。	2.7	ノーチャイムの中で、2分前着席を徹底している。改善が必要な際には、学級委員会や生活安全委員会を中心に解決に取り組んだ。スマホの普及により SNS 等の活用には課題があるが、今後もルールを守る指導を続けていく。	2.8
15	児童生徒はいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って、学校生活を送っている。	2.8	今年度は、スクールヤ-による「いじめ防止授業」(6月)・「SOS の出し方授業」(2学期当初)を全学年で行った。生徒は、自他のストレスに対する対応を考え真剣に受け止めていた。いじめ・トラブルについては今後も未然防止に注力するとともに、早期発見に努めていく。	3.2
16	教職員は自ら手本となるなど、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。	3.1	教職員一人一人が、生徒の手本となることを意識して指導を行っている。しかし上記 13 - 15 の通り、その姿勢が生徒にはまだ伝わっていないのが現状である。この現状を受け止め、今後改善に努めていく。	3.2

評価項目 「健康・体力」

N 0.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	委員 評価 (4~1)
17	児童生徒は、体力向上に向け、体育の授業や部活動または外遊びに意欲的に取り組んでいる。	3.1	生徒は運動に対する欲求があり、昼休みの外遊びなども盛んにおこなわれるようになった。部活動に意欲的に取り組む生徒も多い。ただ、体育の授業や部活動においてケガをする生徒が増えている。怪我防止に配慮したい。	3.5
18	学校は、児童生徒の健康管理および食育に関する意識を高めようとしている。	3.1	他校の学校栄養職員の力を借りながら食育について生徒に指導し、バランスの取れた規則正しい食事と健康な体作りを指導していく。今年度グループ給食を再開し、生徒が楽しく食事をとることができる環境に努めた。	3.5

評価項目 「生徒指導・教育相談」

N 0.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	委員 評価 (4~1)
19	学校は、児童生徒の立場に立ち、一人一人の思いや願いを大切に、児童生徒に寄り添った対応をしている。	3.3	生徒の指導については、毅然とした態度で臨むことが必要であるが、生徒の目線に合わせた生徒理解を重視している。教員一人での対応にならないよう常に複数での対応を意識し、一人一人に誠意をもって接するように心がけている。	3.4
20	学校はいじめや不登校をなくすため、児童生徒への指導の充実を図っている。	3.2	今年度新たに、教員による毎週の状態の把握、毎日のPCを利用した健康観察(「心音」)を導入するなど、不登校ゼロ日目作戦を強化した。生徒指導部会・教育相談部会・学年会などあらゆる場面で情報を共有し、生徒一人一人に寄り添った対応・指導を行っている。	3.3